

議会報告会 報告書

彦根市議会議長 西川 正義 様

議会報告会 市民産業建設班

報告者 和田 一繁

開催日時	平成 29 年 2 月 21 日 (火) 19 時 00 分～21 時 00 分
開催場所	稲枝地区公民館 大会議室 (2 階)
出席議員	議員氏名 (役割) 谷口典隆 (開会挨拶)、山内善男 (閉会挨拶)、馬場和子 (第 1 部報告) 安藤 博 (第 1 部報告、会場案内責任者)、八木嘉之 (第 2 部報告) 上杉正敏 (受付)、小菅雅至 (司会進行)、和田一繁 (記録)
参加者数	39 人
内 容 (内容及び時間配分)	1、 開会挨拶 (議員紹介、資料確認、進行説明) 19 : 00～19 : 10 2、 第 1 部 主要な事業の報告、質疑応答 19 : 10～20 : 00 3、 第 2 部 委員会別テーマの意見交換 20 : 00～20 : 45 4、 閉会挨拶 20 : 45～20 : 50 5、 アンケート記入 20 : 50～21 : 00
主な質疑応答、 議会への意見	第一部 主要な事業の報告 Q、彦根市新市民体育センターに関して、各スポーツ大会が開催された場合敷地内での駐車場台数は十分確保されているのか。 A、北側 420 台 南側 36 台確保している。大会と重なる場合 500 台は確保するように要望していく。 Q、市のさまざまな主要事業は城を中心とした旧市内の開催ばかりである。認識がおかしいのでは。 A、主要事業 (410 年祭) でも稲枝地区での開催や、彦根市議会としても今回の議会報告会でもテーマ設定を含め稲枝地区での開催など、市全体としても事業振興計画などそれぞれの地域において推進していると考えます。 Q、主要事業よりもっと市として、人口減少や都市間競争に対して具体的な政策を打ち出し、他市と比べそのあたりが弱い認識を持ってほしい。

A、認識はしており、平成 30 年から小学生 3 年生までの医療費無料化やバランスよく子育て世代に対する政策、福祉の充実も含め議会として要望を図っていく。

Q、昨年 12 月稲枝駅自由通路開通の記念式典で配られたパンフレットは城を中心とした資料ばかりで、しかも秋シーズンがメインの資料が配られました。参加者や稲枝住民に対して失礼ではないか。

A、担当部局にしっかり要望する。

Q、彦根市以外で小学校、中学校卒業まで医療費が無料である、近隣地域との差はどうか。

A、財政的に考えると彦根市としては、今回小学校 3 年生まで無料化になるが、今後地域、世代に対してさらに予算化が必要である。給食費、医療費など近隣地域と格差が開かないようにする。

Q、稲枝に対して有効な政策を提案してほしい。農業政策など、彦根梨などどう発展していくか。

A、農地転用や 6 次産業化など今後も議会としても有効な政策など充分議論していく。また当局にも要望していく。

Q、若手の子ども世代から、さまざまな保育所、幼稚園施設で、統合や休館など施設整備等問題が出てくる。認定子ども園など、両方からの保護者に戸惑いがある。教育学習環境の整備を含め実務に対してはどうか。

A、平成 29 年度から新たに、子ども未来部が設けられ相談を含め受け皿になる。就学前のお子さん達をしっかりとカバーしていく。

第二部 稲枝駅整備および西口開発について

参加者からの意見

- ・稲枝地区の土地利用について、農転が困難で人口が流出している。
- ・稲部遺跡が彦根駅前なら都市の発展のため 4 h a は確保できない。
- ・クランクの道路は大型車の通行は可能か、事故誘発の原因を市が作ることになる。
- ・遺跡を公園化して観光地として集客している地域があるか。
- ・施設の管理が稲枝にとって有効と考えられない。
- ・農業の担い手に指導助言し、魅力あるまちづくりが必要。
- ・法線を変えることに対して稲枝地区としては反対である。
- ・2 月 16 日に説明会があり、道路計画法線変更の方針が打ち出され、市から説明図面が出た。同時にNHKでも報道されていた。外に漏れることはない情報が流れている。稲枝を軽視している。市政の暴走を止めるのが議員の仕事である。34 町の想いを無にされた。
- ・同意で、なし崩しに道路工事が進む。
- ・国体に向け出費が多い。遺跡博物館とし活用した場合、誰が管理していくのか、本当に観光客が来るのか議員がよく考えて議論を。
- ・H16 年から店舗出店の話があったが整わなかった。市にやる気があればで

	<p>きること。近江八幡市は市長がトップで動いた実績がある。執行部のチェックを。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路計画法線見直し変更案が示されたとき市議の反応は。 ・埋蔵文化財は表に出たら記録として残し、埋めれば価値はそこなわれるものではない。 ・市長の英断はだれのためか。文化財と稲枝地区を天秤にかけている。 <p>議員からの回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用については、これまで見直されてこなかったが、昨年見直された。農業を国の基幹産業として大事にすべきである。 ・4 h a については担当部局の協議でそうだったが、南彦根でも彦根でも国の指導に基づき残しておく。 ・法線変更のため、測量にも同意が必要。市は早いうちに補正予算で対応したい考えである。クランクについても測量して検討する。 ・全国の観光遺跡として、奈良県の纏向や和泉市の池上曾根、青森県の三内丸山、佐賀県の吉野ヶ里などがある。市は4 h a の他、都市公園としての想定もあり、まちづくりを進める姿勢である。 ・市長が変わっても方針は変わらない。 ・図書館の南館も稲枝地区がふさわしいとされており、地区計画も作成されており、地域とともに進んでいく。 ・農振の解除には2～3年かかるといわれる。法線にあわせて地区計画も作り直さないといけない。ここをいかに縮めるかは政治力である。法線の変更を認めてもらい、できることはやる。 ・変更の方針が示され、議会でも地元議員からもさまざまな意見が出た。今後とも議論していく。
<p>市への要望等</p>	<p>「主な質疑応答、議会への意見」に「市への要望」も含み、記載しております。</p>